

# 地域日本語教育の はじめてハンドブック

2024 Mar vol.1

はじめましょう、  
地域日本語教育



- ▶ 地域日本語教育はどこで行われているの？
- ▶ 「東京における『地域日本語教育の体制づくり』のあり方」って？
- ▶ 東京都つながり創生財団の地域日本語教育事業をご紹介します！



**知**りたい！ 地域の取組

① 北区 ② 葛飾区

番外編

武蔵野市国際交流協会(MIA)にお邪魔してきました



## はじめましょう、地域日本語教育

このハンドブックを手にとってくださっている**あなたの地域が目指す社会**はどんなものでしょうか？

2019年に「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行され、これを受ける形で多くの自治体で地域日本語教育の取組が検討されるようになりました。

実は地域日本語教育に取り組むことは、**地域づくりにつながります**。一緒に地域日本語教育の必要性について考えてみましょう。

### ●そもそも地域日本語教育って？

地域日本語教育とは、「生活者のための日本語教育」のことです。

生活者…？ そうです。地域日本語教育が対象としているのは、地域で生活しているすべての人です。

日本語学校や企業、学校等において日本語を学習している方も、住民として地域で生活していることには変わりはありません。

買い物に行ったり、電車やバスを利用したり、役所で手続きをしたり、友達をつくったり…そうした日常生活で必要な日本語を学ぶことが、地域日本語教育です。

地域日本語教育は、だれもが安心して暮らせる社会を実現する上で、必要な要素のひとつです。

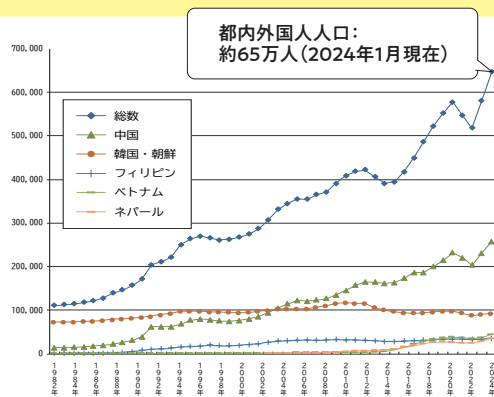
**あなたの地域でも地域日本語教育をはじめませんか？**

### ●なぜ地域日本語教育に取り組む必要があるの？

「日本語教育の推進に関する法律」では、日本語教育に関する地方公共団体の責務が明記されています。「うちの地域では外国人人口は少ないし…」「日本語教育はボランティア団体がやっているから大丈夫」などと思っている方もいるかもしれません。

でも、こんな経験はありませんか？窓口に日本語が分からない方がいらした時、必要な手続きをちゃんとわかってもらえただろうか、と不安になったこと。

また、地域の方から「外国人のゴミ出しルールが守られない」「騒音で迷惑している」といった困りごとを相談されたことはありませんか？



東京に暮らす外国人人口は増加傾向にあり、今後の地域づくりは、これまで以上に外国人とともに進めていく必要があります。

これらの不安や困りごとは、互いのコミュニケーションが不足していることが原因ではないでしょうか。住民同士が日本語でコミュニケーションがとれるようになることは、お互いの安心にもつながります。

東京で暮らす外国人人口は増加傾向にあります。その人たちの滞在理由・目的が様々あるように、彼らが日本語を必要とする理由・目的も様々あるはずで。

例えば、子供が通う学校の先生と話が出来なかったら、子供がどんな学校生活を送っているか知ることができません。また、近所でお祭りをやっても、言葉が通じないため、顔を出すこともできず、孤立してしまうかもしれません。外国人が日本語を学ぶことは、社会的に自立するだけでなく、その人自身の生活を豊かにし、また地域コミュニティの活性化にもつながります。でも、その前提として、学習者が日本語学習を通じて地域でどんな暮らしができるようになるか考えることが大切です。

**地域住民の暮らしがよくなるように取り組むことは行政の重要な仕事です。**

### ●それでは、何から始めたらいいの？

**ヒントはこのハンドブックの中に！ぜひ最後まで読んでみてください**



### 「日本語教育」と「やさしい日本語」の両輪のはなし



多文化共生の世界では浸透してきた「やさしい日本語」(※)。地域日本語教育を通じて、「外国にルーツをもつ人々」と「地域」をつなぎ、多文化共生の実現を目指していくには、日本語教育とあわせて、やさしい日本語の普及啓発が必要です。

**なぜ？** 日本語学習者との対話の促進には、日本語話者側のコミュニケーションの調整が重要だからです。

(※)「やさしい日本語」とは、外国人等にもわかるように配慮し、表現を簡単にした日本語のこと。

**例** 高台に避難してください

**たか高いところに 上げて ください**

詳細はこちら▶

<https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/yasanichi/about.html>



### 調べてみよう・考えてみよう

あなたの地域に暮らす外国人の数は？  
彼らはどこの国・地域にルーツがある？

【参考】

東京都の統計▶

<https://www.toukei.metro.tokyo.lg.jp/gaikoku/ga-index.htm>



## 地域日本語教育はどこで行われているの？

地域日本語教育の歴史を振り返り、地域日本語教育の現場ではどんなことが行われているのか確認してみましょう。

地域日本語教育は長年ボランティアに支えられてきました。都内の日本語教室は300を超えと言われており、その多くは現在もボランティアによって運営されています。

### ●地域の日本語教室ってどんなところ？ どんなことをしているの？

- ✓ 外国人が日本語を勉強しながら、地域の人たちと交流をしたり、生活情報を得たりしている
- ✓ 大人のための教室、子供のための教室、親子のための教室など、色々なクラスがある
- ✓ 教室の形式は、グループ制、マンツーマンなど様々

**あなたの地域に日本語教室はありますか？**

**東京日本語教室サイト(p.14参照)を覗いてみてください！**



### 地域日本語教育のこれまで

日本語教室は、同じ地域で暮らす外国人住民の支援をするため、1970年代に住民らによって作られたのが始まりです。草の根の活動として発生・発展してきた日本語教室ですが、2006年の総務省「地域における多文化共生推進プラン」において、「日本語支援は、自治体の施策として行うべきではないか」と提唱されました。また外国人材の受け入れが進み、2019年には「日本語教育の推進に関する法律」が公布・施行されました。



### 子供への支援は？

「日本語教育の推進に関する法律」には、「外国人等である幼児、児童、生徒等に対する日本語教育」に関する記載があります。

子供の日本語支援には、教育委員会や子供・家庭支援部署など、組織横断的な連携が必要です。東京都は、2022年度に子供政策連携室を新たに立ち上げ、室を中心に関係局が連携し、日本語を母語としない子供への支援に取り組んでいます。

## 日本語教室にいる、学習者・支援者の声をお届けします！

### LTC友の会@杉並区

区内に在住・在勤・通学する外国人のために、1994年に設立した日本語学習の支援を行うボランティアグループ



この日は「お雛様」が飾られていました。日本の文化について話したり、逆に学習者の出身国の文化について教えてもらったり、文化交流が行われているようですよ！



LTC友の会で活動する  
山形さん

「今週も楽しかった！」という思いが次の活動につながっています。こちらからだけではなく、学習者から教えられることも沢山。学習者が上手になるとすごくうれしいし、その続きを見たいと思っています。ぜひ、実際に皆さんの目で現場を見て、地域にどんな人が住んでいるのか知って欲しいです！

### LTC友の会で学習するみなさんが日本語を勉強する理由は？ズバリ聞きました！

スナックに行きたいから(笑)お酒とカラオケでみんなとコミュニケーションしたい。

ボルダリングが好き。ボルダリングは日本の選手がとても強い。選手ではないが、強い人が友達にいます。その人はすごい。だからコミュニケーションをとりたい。

日本の会社で働きたいと思っている。IT業界。ゲームとか作れるようになりたい。コジマビデオみたいな。

配偶者が日本に転職したので一緒に来ました。



### LTCは皆さんにとってどんな場所ですか

色々な日本の文化を教えてくれてうれしい。日本語の勉強を手伝ってくれるところ。

日本語を話せる場所。

日本語を練習したくて来る。みんなにも会えるし。

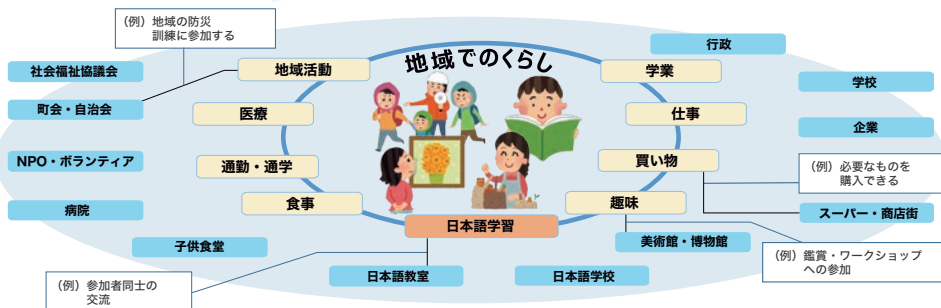


## 「東京における『地域日本語教育の体制づくり』のあり方」って？

外国人人口やリソース等、地域の状況は様々です。こうした状況を踏まえ、都は令和4年度に、区市町村が主体的に地域日本語教育の体制を構築する上で参照できるように都の目標や目指すべきレベルを定めた「東京における『地域日本語教育の体制づくり』のあり方」をまとめました。

### ●こんなことが書いてあります

**目標** 日本語教育を通じて、外国にルーツをもつ人々と地域とのつながりをはぐくむ



目指す日本語のレベル

地域全体で目指す東京における地域日本語教育のレベル ▶ **B1** レベル

特に行政が関わっていくべき初期段階の日本語教育 ▶ **A1~A2** レベル

▶ やさしい日本語によってコミュニケーションがとれるぐらいまで

A1~A2? B1? って何?

国がとりまとめた国内外共通の日本語能力指標（日本語教育の参照枠）のこと

### 目標達成のために必要な考え方

- ✓ 地域における共生社会実現のために、体制構築に関する**明確な考えを持っていること**
- ✓ **地域の実態を把握し、課題を理解していること**
- ✓ **2つの視点（初期段階の日本語教育を保障する／外国にルーツをもつ人々が地域社会とのつながりを持つ）を持ち、取り組んでいること**

**体制づくりは、必ずしも行政職員だけで取り組む必要はありません。**  
**地域で外国人支援に携わる方などと**  
**一緒にチームで取り組むことも視野に入れましょう。**

## 初期段階の日本語教育を保障するってどういうこと？

あなたの窓口にも来たことはありませんか？日本に来たばかりで全く日本語が話せない方たち。東京都は、そんな外国人の方々に日本語を学ぶ機会を**行政が提供していくべきだ**と考えます。

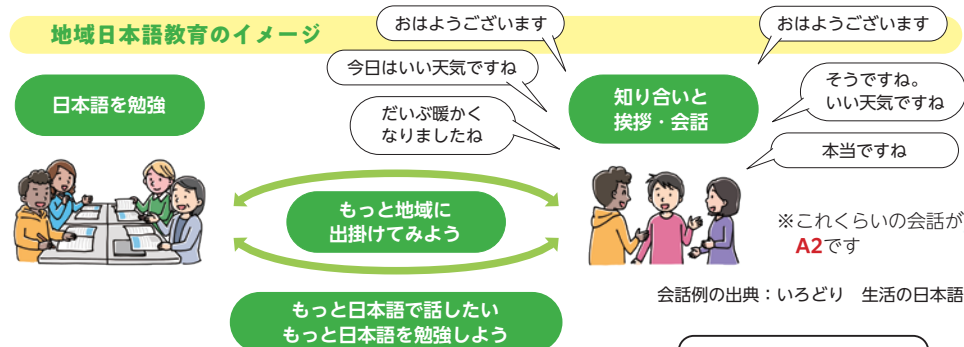
### ●なぜ、行政でないといけないの？

日本語能力がゼロに等しい外国にルーツを持つ人々の学習支援には、**専門的なスキルやノウハウが不可欠**です。

学習者が日本語を学ぶ初期段階でそうした専門性を備えた団体や支援者から指導を受けることにより、**基礎が確立し、その後、地域のコミュニティや日本語の更なる学習機会につながりやすくなる**と考えられます。

日本語がゼロレベルの人に日本語学習を支援することは、普通のボランティアにはむずかしいです。この部分に公的な支援があれば、ボランティアもストレスなく、活動を楽しみながら、地域の教室運営ができると思います。  
 LTC 友の会 山形さん

### 地域日本語教育のイメージ



### 少しだけ日本語学校についてご紹介します

都内にはたくさんの日本語学校があり、規模・形態・方針、そして学習者が日本語を学ぶ理由も様々です。留学生の進学指導に特化している学校もあれば、特定の国の人だけ受け入れている学校もあります。

台東区にあるインターカルト日本語学校にお話をうかがいました。インターカルト日本語学校では、留学生への日本語教育以外にも、これまでに様々な自治体と連携し、「ボランティア対象の教え方講座」「日本人向けのやさしい日本語講座」そして「生活者としての外国人を対象とした日本語教室」など地域を対象とした事業を実施されてきたそうです。

日本語学校だからできることもあると思います。地域の課題のために何ができるのか、一緒に考えながらできるというですね。



インターカルト日本語学校  
加藤校長・谷口さん

# 知りたい！ 地域の取組

いざ、地域日本語教育の体制づくりに取り組もうと思っても、何から手を付けていいかわからないもの。すでに取り組んでいる自治体の職員もはじめは同じ悩みを持ってははず！そこで、ゼロから地域日本語教育の体制づくりを始めた北区と葛飾区のご担当者とその取組について話を聞きました！

## 1 北区



令和4年度から日本語学校と連携した体制づくりに取り組んでいます。学習者がより地域につながるよう様々な主体との連携を深めるなど、多文化共生を進めています。

北区総務課で地域日本語教育に取り組む中村さん（右端）・内野さん（左から2番目）・酒巻さん（左端）。そしてJET日本語学校の山口先生（右から2番目）

### 北区のDATA

総人口 357,701人  
外国人人口 27,362人  
外国人比率 7,65%  
(2024年1月1日現在)

### 北区の事業

- ✓ 日本語教室の開催
- ✓ 日本語教室ボランティアとの情報交換会 など

## きっかけは日本語学校との出会い

### ●北区が体制づくりをはじめたきっかけは何ですか？

北区主体で日本語教室の事業を開始する前は、ボランティアの皆さんに地域の日本語教育を担っていただいていた。しかし、在住外国人の増加に伴い、ボランティア教室だけでは対応しきれなくなっていました。

そうした状況の中で、もともと区の多文化共生に関する事業に協力をしていただいていた日本語学校が、地域の日本語教育のために区に力を貸して下さることになり、それが区の日本語教室事業化の大きな契機となりました。

### ●実際に取り組んでいく中で、地域日本語教育はどんなものだと感じていますか？

地域日本語教室の場は、外国人が日本語を学習し、地域住民とコミュニケーションを図ること、そして、地域社会とつながりを持てるようになる場所だと考えています。

そのため、北区では、学習者が自発的に地域とつながっていくのを待つだけでなく、学習者同士（または学習者と日本人サポーターたち）が交流できる交流会のような機会を提供しています。また、防災講座や文化体験、区民まつりなど、各種イベントの周知を行い、積極的な参加を促し、より地域とつながりがもてるように促しています。

### ●日本語学習者と直接関わる中で見えてきた課題はありますか？

区では、学習者へのアンケートや意見交換などを通して、当事者目線での生活における困りごとや、区への要望を把握できるよう努めています。その中で、主に次のような声をいただいています。

- ✓ 区役所での手続きや学校関係の書類が難しい
- ✓ 病気で病院に行ったときに言葉の壁があって困る
- ✓ 区に多言語で相談できる窓口がほしい

### ●そういった課題に対して、今後どのように取り組んでいきたいですか？

上記のような課題を把握する中で、今後、社会福祉協議会（社協）のような地域とのつながりを担っていただけそうな機関・人材と連携し、助言を得ながら、多文化共生指針の検討を行っていきたいと考えています。そのため、現在の検討会のメンバーには、指針策定時の検討会には入っていなかった社協がメンバーとして参画しています。

**地域日本語教育の事業を通して、多文化共生を進めるためには、区だけではなく、様々な機関や人材と連携し、垣根を超えたチームで取り組んでいくことが重要だと認識しているところです。**

### 社会福祉協議会って どんなところ？

社会福祉協議会は、社会福祉法に基づき、全国・都道府県・区市町村のそれぞれに組織されています。社協の取組は地域によって異なりますが、身近な地域で様々な地域福祉活動を推進しています。

社協も含めたチーム体制づくりの検討を進めているとのこと！少しずつでも、社協の方との情報共有や意見交換の場を持てるようになり、地域の状況を教えてもらっているそうですよ。

## 行政職員から見たとある日の北区日本語教室

1

学習者をお出迎えする前に先生と打ち合わせをして今日のカリキュラムを確認します  
今日のテーマは「アパートの間取り」  
(まさに生活に必要な日本語！)

2

今日の学習者がいらっしゃいました！  
「こんにちは」とあいさつをして受付をします

3

授業スタート  
みなさん熱心に取り組んでいます。  
(私も熱い視線を送ります…)



北区で暮らすために必要な日本語を勉強するぞ  
(中村さん)

4

授業の後は…  
担当内で今後の日本語教室の改善に向けて熱い議論&反省会  
…時々息抜き乾杯も♡



考えることは沢山あるけど、できることも沢山ある。前向きで楽しい事業だと思います。

さあ、日本語をつかおう！



この日は、年末とお正月の挨拶を覚えたり、お正月の日本の遊びを紹介ということでみんなで福笑いを手作りし、遊びながら交流を深めました。

学んだ日本語を実践する場があることが重要です。北区では日本語教室の学習者同士又は学習者と日本人との交流を目的とした「特別教室」（日本語サロン）を開催しています。

「同じって嬉しい！違うって楽しい！」地域の外国人と接していると、様々なところこの言葉を発したくなります。地域で日本語を学んだ外国人がそこで活躍し、いつか、外国人支援のリーダーとなってくれることを願っています！

### 山口先生ってどんな方？

- ✓ JET日本語学校の校長先生
- ✓ ご自身も地域とのつながりをつくりながら、北区の職員と一緒に地域日本語教育に取り組まれています



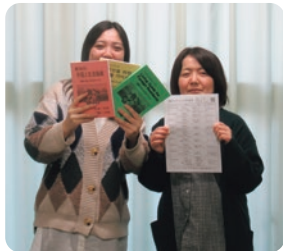
## 2 葛飾区

### 葛飾区のDATA

総人口 467,000人  
外国人人口 26,838人  
外国人比率 5,75%  
(2024年1月1日現在)

### 葛飾区の事業

- ✔ 日本語教室の開催
- ✔ 日本語教室ボランティア育成
- ✔ ボランティア日本語教室運営団体との情報連絡会
- ✔ やさしい日本語講座 など



地域の日本語学習を支えてきたボランティアさんたちと連携しながら体制づくりに取り組んでいます。学習者が地域につながっているよう取組を進めます。

葛飾区文化国際課で  
地域日本語教育に取り組む大木さん・松田さん（右から）

### ●葛飾区が体制づくりをはじめたきっかけはなんですか？

2019年の入管法の改正や、「日本語教育の推進に関する法律」の公布をきっかけに、2020年度から、「地域で活動するボランティア日本語教室運営団体との情報連絡会」を始めました。この会議において、ボランティア日本語教室から「はじめて日本語を勉強する学習者への学習支援の負担の大きさ」が問題提起されました。同時に「基礎レベルの学習を区でサポートして欲しい」との要望があり、区による「はじめて日本語を勉強する学習者を対象とした日本語教室」の検討が始まりました。

### ●事業を立ち上げる際は大変でしたか？

初めての取組だったので、予算確保など、庁内理解を得るのは大変でしたが、合意形成にあたって追い風になったのは、ボランティア日本語教室運営団体からの声だったと思います。日本語教室の体制づくりをはじめ、初めてのことばかりで不安でしたが、ボランティアの方から「大きな一歩なのだから、気楽にやってみればいい」とアドバイスをいただき、気持ちが少し楽になりました。その後、ボランティア日本語教室の視察・意見交換や、日本語学習支援に実績がある業者へのヒアリングなどを経て、立ち上げに至っています。結果的に、区の計画事業として新たに位置づけることができました。

## 行政にとって法律制定の影響は大きい…

### ●どうやって進めましたか？

区として取り組み始めた2019年当時は、入管法の改正で外国人住民が一層増えるの見込んでいました。当時の外国人対応は、各職場が独自に行っていたため、庁内の会議体（多文化

共生社会推進検討委員会）を設け、外国人対応に関する実態調査を行いました。その結果、外国人対応に不安を抱える意見が多数寄せられ、「取り急ぎ多言語対応を」との考えで、補正予算を計上し、携帯型翻訳機210台を本庁や学校・保育園などの窓口職場に配置しました。

しかし、**行政窓口での会話なら多言語対応で対処できても、日本の地域社会で日本人と共生していくには、やはり日本語が必須との考えに至りました。**一方で、「日本に居住する外国人の多くが、簡単な日本語ならわかる」といった実態を受け、職員向けに「やさしい日本語研修」をはじめたところ、一般的なコミュニケーションツールとしても有効であることが認められ、今では職層研修に組み込まれています。2022年度からは、区民向けの講座も開始し、外国人には日本語を、日本人にはやさしい日本語を学んでもらい、互いに歩み寄れるよう両輪で進めています。「多言語対応」「やさしい日本語」「日本語教室」の3つを組み合わせ推し進められたのも良かったように思います。

### ●今後の展望について教えてください

区の教室で、A2レベルまでの学習支援を行い、その後は、地域のボランティア日本語教室等でレベルアップしてもらいたい考えです。そのためにも、区の教室規模（学習時間、クラス数、実施地域など）を検討しながら拡大していく予定です。これまで、区の教室での学習時間は「ひらがな」「カタカナ」の習得状況により、「入門」「初級」レベルに分けて約50時間でしたが、2024年度は「初級」を100時間に拡大します。さらに、防災や役所での手続きなど、生活に必要なテーマを学ぶための時間として10時間を追加します。また、「区教室修了者の受け皿確保」や、「ボランティア不足」などの課題に対応するため、「ボランティア養成講座」「ボランティア・スキルアップ講座」と併せて、区民向けの「やさしい日本語講座」も、これまで以上に取り組んでいきます。



## 番外編

雰囲気づくりを大切にしながら地域日本語教育を行っている

# (公財)武蔵野市国際交流協会(MIA)にお邪魔してきました

### 武蔵野市のDATA

総人口 147,809人 / 外国人人口 3,719人 / 外国人比率 2.52% (2024年1月1日現在)

### 武蔵野市国際交流協会の事業

- ✓ 日本語教室の開催
- ✓ 生活相談
- ✓ 子ども支援
- ✓ 外国人と協働の地域向け多文化理解 など多岐にわたる事業を展開

## ●「外国人のための MIA 日本語コース」

- グループ活動(週1回)とマンツーマン活動(月2~4回)
- 参加費: 6,000円 (全10回)
- 日本語初級の方は無料のマンツーマン活動もあり
- 10言語のチラシを作成



MIAに通う参加者

MIA はのたのしい友だちと一緒に話したり、子どもの小学校の準備を相談したりします



MIA の日本語コースでは、日本語の使い方を紹介すると同時に、生活に必要な情報共有や人との繋がりを意識した教室づくりを心掛けています。日本語や媒介語で交流し、互いの文化を尊重し学び合いながら友達になることを目指しています。

## ● 雰囲気づくりを大切にしているのはなぜですか？

地域住民同士の人間関係づくりを大切にしているからです。日本語学習を「目的」ではなく「交流の手段」として、日本語に不慣れでも自由に話せるよう、話しやすい環境づくりが大切だと考えています。

## ● 印象に残っているエピソードを教えてください

ーティッシュを真ん中において、みんなで泣いてた

学習の場でお互いの信頼関係が出来る、素直な感情が出せるようになります。子育てをテーマに話した時、子育ての不安やストレスが飛び出し、参加者が泣きながら励まし合っていたことがありました。小さな悩みは、安心できる仲間同士で何となく解決でき、笑顔で帰っていきます。いわゆる学校スタイルで学習の到達目標にだけ照準を合わせる現場とは異なり、多様な時間の過ごし方が出来る場だからこそできることだと思います。

## ● 地域日本語教育に必要なこと

地域の関係者・機関で対話しながらつくっていくプロセスは欠かせないと思います。地域の関係者・機関の方は地元に着し、それぞれの専門性を活かし、長いスパンで外国人と関わることが出来ます。生活基盤の構築、仕事への挑戦、結婚や子供の誕生、教育や医療との関わりなど多様な局面で、それぞれが異なる経験値を持ち寄り、協働するチームが作れると強味になると思います。まず、小さいネットワークから始めて、地域に合う形にしていけば良いと思います。私たちも試行錯誤を続けています。



### ● MIA 事務局コーディネーターの役割

日本語学習支援事業全体の企画・予算確保、参加者(学習者)や日本語交流員(ボランティア学習支援者)の募集・研修、課題への対応(MIA内や外部機関との連携調整)

### ● MIA 日本語学習支援コーディネーターの役割

日本語交流員の学習内容作りの助言、日本語教室内で参加者と日本語交流員のマッチングや教室内で課題が見えた際に、事務局コーディネーターにつなぐ。

(左)MIA事務局コーディネーター 田村さん  
(右)MIA日本語学習支援コーディネーター 浅井さん

日本語が上達することだけでなく、「困ったらあの人に相談しよう」「おしゃべりする楽しいな」といった関係性がつくれることに、日本語教育を通じた共生社会実現のヒントがあるように感じました



## ● 日本語教育と相談事業との関係

MIA へのヒアリングの中で、「相談事業と日本語教室を一緒にできているのが強み」といったお話があり、相談事業を担当している相談事業のご担当者にお話しをお聞きしました。

「日本語教室は地域に密着している分、学習者からボランティアに相談ごとが寄せられるケースもあると聞いています。留意すべきは、ボランティアに負担がかかり、本来の活動ができないというだけではありません。転職や結婚や離婚などのように在留資格に影響し、相談者の生活を左右する可能性もあるので、自己判断で答えてしまうことは大変危険です。専門的な知識が求められる場合もあるので、相談事業を行っている部門との連携が不可欠です。」



## 東京都つながり創生財団の地域日本語教育事業をご紹介します！

新しく地域日本語教育の担当になった自治体職員の方からは、「業務に対応するために、専門知識を身に付けたい」「他の自治体がどのような事業を行っているのか知りたい」「専門家からのアドバイスが欲しい」など、様々なご意見をいただいています。

東京都つながり創生財団では、財団内に総括コーディネーターと地域日本語教育コーディネーターを配置して、**自治体職員向けの研修、情報共有のための会議や意見交換会などを開催**しています。

総括  
コーディネーター  
から

体制づくりは日本語教室を開催することだけではありません。地域にどんな日本語学習のニーズがあるか調査したり、関係する機関とのネットワークを作って、連携して取り組むこともとても重要です。ぜひ財団と一緒に検討して、体制づくりを進めていきましょう！



### 1 地域日本語教育コーディネーター連携会議



東京都の補助金を利用することになったけど、他の自治体は補助金でどんな事業を行っているんだろう？

区市町村の地域日本語教育コーディネーターが参加する会議を、年2回開催しています。

※自治体や国際交流協会の職員は傍聴参加できます。

それぞれの自治体の事業内容や、地域の関係団体との連携方法などについて、相談やアドバイスを行っています。



連携会議の一環として、**地域日本語教育に関する研修会や、オンラインの意見交換会を開催**しています。

全国の先進事例の紹介などもしていますので、ぜひ事業企画の参考にしてください。



### 事業の企画などで困った時は

財団のコーディネーターが、日本語教室の立上げや地域連携などについて一緒に検討します。ぜひお声がけください！（連絡先）nihongo@tokyo-tsunagari.or.jp



### 2 地域日本語教育に関する専門研修



行政職員だけではなく、地域で活動する支援者の方にも、地域日本語教育の体制づくりについて知って欲しい

日本語教室で中核的な活動をしている方や、自治体職員等を対象として、地域日本語教育に関する専門知識を学び、支援者同士の情報交換やネットワークづくりを行う研修を開催しています。

地域の支援者の方にも受講いただいて、連携して課題解決を目指しましょう。



### 3 東京日本語教室サイト



<https://nihongo.tokyo-tsunagari.or.jp/>

在住外国人やボランティアを希望する方に日本語教室の情報を知らせたい



日本語を学びたい在住外国人やボランティア希望者が日本語教室を探ることができるように、都内の日本語教室を掲載した「東京日本語教室サイト」を運営しています。メールフォームを利用して、直接日本語教室に問合せすることができます。

※やさしい日本語、英語、中国語（簡体字・繁体字）、韓国語で表示されます。

日本語教室の広報や、ボランティア募集情報の掲載にぜひご利用ください！



公益財団法人  
東京都つながり創生財団  
Tokyo Metropolitan Foundation "TSUNAGARI"

公益財団法人東京都つながり創生財団は、多文化共生社会づくりと共生社会づくりを行うために設立された、東京都の政策連携団体です。

東京都つながり創生財団  
web サイト  
<https://www.tokyo-tsunagari.or.jp/>



東京都多文化共生  
ポータルサイト (TIPS)  
<https://tabunka.tokyo-tsunagari.or.jp/>



財政支援としては、「東京都地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」という補助金を用意しています。詳細は東京都生活文化スポーツ局までお問い合わせください。

### 編集後記

はじめてのハンドブック、いかがでしたでしょうか。地域日本語教育の体制づくりは、日本全国で始まったばかりです。国も、都も、専門家もみんな試行錯誤しながら進めています。今回のハンドブックには載せきれなかった情報がまだまだたくさんあります。東京都は今後も必要な情報を集約して、区市町村のみならずと共有していきます。よりよい地域づくりのため、体制づくりを進めていきましょう！



# いつでも「知りたい」が見つかる 役立つサイトをご紹介します

## 無料の教材

### ①いろいろ「生活の日本語」

<https://www.irodori.jpf.go.jp/>

レベルが3つあり、はじめて日本語を勉強する人にも対応しています。音声ファイルが豊富です。オンラインコースを使って、ひとりで勉強することもできます。(19言語対応)



オンラインコース

▶ <https://www.irodori-online.jpf.go.jp/>

## 日本語教室で使えるツール

### 日本語能力自己評価ツール にほんごチェック!

<https://www.nihongo-check.bunka.go.jp/>

日本語学習者が、自分の日本語レベルを確認するためのツールです(14言語対応)。学習希望者をレベル分けする時や、学習がどのくらい身についたか確認する時などに利用できます。



### ②つながるひろがる

### にほんごでのくらし(つなひろ)

<https://tsunagarujp.bunka.go.jp/>

レベルが3つあり、はじめて日本語を勉強する人にも対応しています。動画を中心にした教材で、場面ごとに動画を選ぶことができます。ひとりで勉強することもできます。(18言語対応)



## 国の総合情報サイト

### 日本語教育コンテンツ共有システム (NEWS)

<https://www.nihongo-ews.bunka.go.jp/>

「日本語教育の参照枠」の他、日本語教育に関する教材などの日本語教育コンテンツが検索できるサイトです。



地域の日本語教育って、その地域をよくしていく、明るく楽しい取組だよなあと、いつも思っています。まだまだ先行事例が少ない中、行政の取組を形にするには大変な苦労があると思いますが、ぜひ、このハンドブックと共に(ちょっとだけ苦しみつつ)、よい社会を創っていけるといいなと思います。

東京の地域日本語教育に係る調整会議座長／武蔵野大学教授  
神吉 宇一 先生

## 問合せ先

東京都生活文化スポーツ局都民生活部地域活動推進課  
多文化共生推進担当

☎ 03-5320-7738    ✉ S1121202@section.metro.tokyo.jp

